

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩 心 会 発行

10年 逗葉大 (合)	1月現在 子山地 地地区 地地区 計	会員数 145名 210名 33名 388名	10年 発加 編中	1月 行藤 集村	(306号) 者相 者愛
-------------------	--------------------------------	------------------------------------	-----------------	----------------	--------------------

新年のごあいさつ

会長 加藤 岳相

新年お目出度うございます。会員の皆様ご家族と共に希望に満ちた新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申しあげます。

昨年は会員の皆様のご協力により、碩心会創立60周年大会を成功させ、碩心会の名声を挙げていただきましたが、世の中良いことばかりはなく、社会的には神戸の少年の虐殺事件、バブル経済の崩壊による一部金融機関の倒産等による国民への不安感、又碩心会の現在の隆盛にご尽力下されました前会長根岸先生の退会等、いやな年でありました。然しこれらいやなことをのり越えて進むことこそ吟道を励む私達人生の生甲斐ではないでしょうか。晴れた冬の夕空に、濃紫紺色で浮かぶ高い富士を眺める気持で。

会員の皆様には、吟道で培った真摯な精神を以って、会員相互の和をモットーに、健康に留意し、益々吟道に精進なされ、日本古来の文化の向上と、碩心会の発展のために、貢献下されんことをお願いして、新年のご挨拶と致します。

平成十年度 行事予定

(総本部関係)

- 3・22(日) 第4回全国優秀吟者吟道大会 (九段会館ホール)
- 7・1(水) 岳風忌 (諏訪・地藏寺)
- 7・25(土) 第43回夏季吟道講座 (九段会館ホール)
- 7・26(日) 日本教育会館
- 9・20(日) 木村岳風先生・生誕100年祭 (諏訪市)
- 10・4(日) 第109回全国吟道大会 (北海道厚生年金会館)
- 10・25(日) 第4回全国青壮年吟道大会 (会場未定)
- 1・25(日) 県本部初理事会・初吟会 (県本部関係)
- (ヨコハマジャスト崎陽軒8F)
- 2・8(日) 準師範講習会 (平塚農業会館)
- 2・15(日) 高段者審査会 ()
- 2・22(日) 高段者審査会 ()
- 4・19(日) 総伝会 ()
- 5・5(祝) 第3回吟吟大会 (65才以上独吟) (港南区民文化センター)

- 5・17(日) 第109回全国吟道大会コンクール
神奈川地区予選会
(金沢公会堂)
- 6・14(日) 県本部総会
(平塚農業会館)
- 7・19(日) 第7回神奈川地区青少年吟道大会
(会場未定)
- 8・2(日) 準師範講習会
(平塚農業会館)
- 8・9(日) 指導者吟道講座・準師範
(会場未定)
- 8・16(日) 指導者吟道講座・師範
(会場未定)
- 8・23(日) 第23回京浜地区吟道大会
(エポック中原)
- 8・30(日) 第23回湘南地区吟道大会
(会場未定)
- 9・6(日) 第23回横須賀第二地区吟道大会
(はまゆう会館)
- 9・20(日) 第6回神奈川地区吟道大会
(横須賀文化会館)
- 9・27(日) 第5回全国優秀吟者神奈川予選会
(会場未定)
- 10・4(日) 第109回全国吟道大会参加
(北海道厚生年金会館)

- 10・11(日) 第23回横須賀第一地区吟道大会
(横須賀文化会館)
 - 10・18(日) 総伝会15周年記念親睦吟詠大会
(平塚農業会館)
 - 11・22(日) 高段者吟法講座
(平塚農業会館)
 - 11・28(土) 県本部最終理事会・納吟会
(会場未定)
 - 1・15(祝) 初吟会
(逗子会館)
 - 3・8(日) 春季審査会(榎好図書館ホール)
 - 5・31(日) 総会
(会場未定)
 - 6・28(日) 温習会
(会場未定)
 - 9・23(祝) 秋季審査会
(会場未定)
 - 11・15(日) 地区温習会
(会場未定)
- 第109回 全国大会参加**
- 日時・10月4日(日)
会場・北海道厚生年金会館(札幌)
出吟料・三千円(千円は県本部から補助)
- 一般 男性 (神州)
合吟 女性 (常盤孤を抱くの図)
連吟 来る5月15日に金沢公会堂
加印ル 合吟 に於ける予選会で選出

県本部 全国大会参加吟行会

全国大会の折、県本部として左記吟行会を行ないます。(参加予定・約二百名位)
日時・10月3日(土)～6日(火)(三泊四日)
旅行費・十万七千円(出吟料二千円含む)
コース・左記(一飛行機・二貸切バス)

(一日目)
羽翻(8・00頃)―軒蔵(10・25頃)―札幌ファクトリー―札幌市内(輝騰)―小樽(運崩ヲ等見学)―定山溪(17・00)
(宿泊・定山溪ビューホテル)

(二日目)
定山溪(8・00)―札幌大会会場
―定山溪(18・00)(宿泊・定山溪ビュー)

(三日目)
定山溪(8・20)―瓊誰巖―旭川桝(昼)
―層雲峡銀河、流星の滝―大函―温根湯
(17・00)(宿泊・温根湯大江本宿)

(四日目)
温根湯(8・30)―網走鮎―網走桝(昼)
―天都山、オホーツク流水館―女満別空港
(15・30頃)―羽田空港(17・15頃)
(右件問合わせは総務部・松井正岳方へ)

賀正

おめでとう
ございます

今年も楽しく

吟道に励みましよう



元旦初吟

木村 岳 風

初夢圓に迎う元旦の天

曉風に颯爽として旭旗翻る

屠蘇一献心身朗かに

吟じ起す新春の正気篇

初夢

本宮 三 香

波静かに亀遊ぶ恵方の海

七福同乗蓬萊に棹さす

弁天の音曲共に舞い

一夜春風夢に入つて来る

宝船

藤野 君 山

寿海波平らかにして紅旭鮮なり

遙に看る宝字錦帆の懸るを

同乗の七福皆笑を含む

知る是れ金銀珠玉の船

新年偶感

宇都宮 徳 岳

遥望富嶽瑞雲中 遙かに望む富嶽瑞雲の中

滄海洋洋淑氣充 滄海洋々として淑氣充つ

栢酒陶然詩興動 栢酒陶然詩興動く

一家健在喜無窮 一家健在喜び窮まり無し

遙かに見上げる秀嶺富士はめでたい雲

にとり囲まれている。

青色の海はひろびろとし、これ又めで

たい空気に満ち満ちております。

お屠蘇を飲んでうっとり詩を作り度

い気分になります。

我が家は一同大変健康で正月を迎える

ことが出来、喜びが限りありません。

森戸神社で第一声

除夜の鐘を聞きつつ森戸神社に向い初詣り。

そして長い参拝者の行列の中、堀内支部有志

は今年的第一声を声高らかに合吟しました。

今年もまず健康第一。そして積極的な姿勢

で「いま」を楽しく、人生の生甲斐をもち、

人生はいつもこれからが本番という気持ちをも

ち、今年も頑張ります。

李白

李白と杜甫は中国最大の詩人で、この二人

は同時代に生きて相互に交りがあった。杜甫

と李白を並べると、杜甫の方が分別があり、

李白に意見でもしそうで先輩らしく思えるが、

杜甫は李白(701-762)より一年下である。

杜甫は「飲中八仙歌」(3/10頁)の酒豪八詩

人の中で、李白のことを次の様に詠んでいる。

李白一斗詩百篇

長安市上酒家に眠る

天子呼び来れども船に上らず

自ら称す臣は是れ酒中の仙なりと

李白は毎日酒に酔い、彼はアルコール中毒

詩人であったという。泥酔して自由奔放、孫

悟空の如く幻想の雲に乗って、天地を駆け廻

つてゆくようなスケールの雄大な詩人はめず

らしいという。

廬山の香炉峰を詠んだ白居易の「香炉峰下

新に山居を卜し」(2/9頁)の詩と、李白の

「日は香爐を照らして紫煙を生ず」(3/5頁)

の詩を比べても、李白の詩は実に豪放で、破

天荒で、勇ましく、痛快なることか。

指導者納会に出席して

真澄 星 野 輝 岳

暮も押しつまつた12月16日、海を望む県警葉山荘で、碩心会指導者の納会がひらかれました。三々五々集まつてこられる先生方は毎月一回講習会で顔馴染の方々です。

まず千葉岳先生の開会の言葉に始まり、会長加藤岳相先生から、来年は会員が又四百人を超す様努力しようとの挨拶がありました。つづいて沼田岳雷先生の乾杯の音頭のもと、日頃敬愛する先生方から「貴女はお酒、それともビール？」と注いでいただき、親しくお話ができました。そしてかき鍋がブツブツ煮えてきた頃お待ちかねのカラオケが始まり、さすが日頃鍛えた吟声でカラオケも堂に入った見事さ。曲につれダンスも始まり、多いに盛りあがりました。一つの道に志を同じくする方々が、先輩後輩もなく、楽しく過ごしたひとときでした。

まだまだお名残り惜しく思われましたが、加藤岳相先生の閉会の言葉をいただき、又来年の皆様様の御活躍と、碩心会の発展を希望して散会。役員の先生方本当に御苦労様でした。

「一種物」納会

堀内・D 鈴木 豊 泉

師走に入つて、先生から「今年もお金をかけないで、家にあるものを一品づつ持ち寄つて、納会をしましょう」との呼びかけがありました。私は堀内・D組の火曜教室に入つて二年足らずの新米生徒で、二回目の参加となります。

当日は風穏やかな暖かい天気恵まれ、今年最後の合吟「富士山」で声ならしをし、次に各人一人づつ自由吟で今年の稽古を終り、あとは楽しい懇親会に移りました。

今年も先生手づくりの稲荷鮎にはじまり、各人各様一品づつの持寄り品で、舌づつみを打ちながらのおしゃべりは、心暖まるひとときでした。ささやかなレパートリーながら、お惣菜の一品でもと、持参するあれこれを思案する楽しみも加わります。

偶々私はある本を読み、一品づつ酒の肴を持ち寄つて小さな宴会を催す風習は、古く平安時代の公卿社会にもあつて、「一種物」と称したと云うことを知りました。そして頻繁に行われて負担になり、取り止めにするとい

うこともあつたとかで、その内容が豪華なものであつたのではと推察されます。

ほんとのささやかな「一種物」で、和やかな交流が行われるわが教室は、ムードに於ては一流と自負しています。そして今年も楽しい雰囲気の中、一年最後の稽古が終了しました。

蛍の光の合唱で無事終了

暮も押し迫つた12月20日(出)夜、堀内会館にて堀内支部納会が行なわれ、係員の方々が早々と座席、料理等用意して下さり、6時半開会。上村支部長の司会で、教場別合吟にはじまり、招待の加藤(堀)会長の挨拶と独吟をいただき、今年の納会となりました。

そのあと楽しい懇親会に移り、料理をつまみながら、フラダンス、新舞踊等々楽しみ、圧巻はほくろをつけた〃都はるみ〃の物まね歌唱で、満場の爆笑と拍手で多いにもりあがり、恒例の全員参加のしりとりに合戦を終え、最後に蛍の光の合唱で、今年も無事に楽しく、堀内支部納会の幕をとじました。

(退会)

160 小峰恵岳(真澄) 483 岩楯亮(下山口)